

# 28AB-pm084

薬用植物の種子発芽に関する研究—キキョウ、ウイキョウ、ニラ、カミツレ、メボウキ、コロシントウリの種子発芽に及ぼす温度の影響

○熊谷 健夫<sup>1</sup>, 瀧野 裕之<sup>1</sup>, 川原 信夫<sup>1</sup> (1)医薬基盤健康栄研・薬植セ・筑波

【目的】国内で栽培可能な薬用植物でかつ需要が高い薬用植物を中心に、種子の発芽条件や休眠性等の情報整備を目的として、薬用植物資源研究センターで採取した来歴や生産年度が明らかな種子を材料に用い、薬用植物種子の発芽試験の標準化に向けた試験を行った。この結果、一部の植物で至適条件が得られたので報告する。

【方法】キキョウ、ウイキョウ、ニラ、カミツレ、メボウキ、コロシントウリの種子の発芽に及ぼす温度の影響を検討した。各植物の種子は試験年の前年産栽培種子を用いた。発芽床に50粒の種子を置床し、15、20、25及び30℃の4段階の一定温度に設定したインキュベーター内で試験を行い、照明条件は、12時間の明暗サイクルで行った。各温度条件ともに3反復で行った。

【結果および考察】発芽試験の結果、キキョウは20～25℃の発根、出葉率が高く、15℃では発根、出葉率は低下した。ウイキョウは20～25℃の発根率は35～37%、出葉率は33～36%であった。ニラの発芽は15～25℃の発芽率は97～100%であったが、30℃で発芽率が低下し、15℃では発芽所要日数が長かった。カミツレは15～20℃で発根率53～56%、出葉率49～55%であったが、25、30℃では発根、出葉率が低下した。メボウキは20～25℃で高く、発根率58～59%、出葉率55%であった。コロシントウリでは25、30℃の発芽率が高く、25℃で発根率42%、出葉率15%であった。以上の結果より、各植物の最適な発芽温度は、キキョウは20～25℃、ウイキョウは20～25℃、ニラは20～25℃、カミツレは15～20℃、メボウキは20～25℃、コロシントウリは25～30℃であると考えられ、今後、上記薬用植物の効率的保存・増殖法の検討に資するものと期待される。